

# 平成31年度入学生用カリキュラムマップ

【臨床教育学研究科 臨床教育学専攻 修士課程】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性							
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2					
19MCEC1001	臨床教育学総論	1	日本の臨床教育学の開拓の試みは、1990年ごろから、新たに始まった。そうした臨床教育学の構想を、本学の臨床教育学研究科で蓄積されてきた研究・教育の努力と到達を踏まえながら、整理して提示する。	受講生のみなさんには、本講義の内容との関連で、臨床教育学のイメージを描き、自分自身の研究関心を明確にしてほしい。	◎	◎												
19MCEC1002	臨床教育学総合演習	1	子ども・若者の生育の過程、親・保護者の暮らしと子育ての営み、福祉・医療・心理臨床・教育、労働・行政・法律などの諸領域ではたらく「発達援助専門職」の実践などについての具体的事例を検討し、受講生のみなさんが、心理学・福祉学・教育学の研究視点の独自性と共通性を理解し、それらを総合しようとしている臨床教育学のイメージを具体的に描けるようにしたい。	領域横断的なカンファレンスの体験を通して、臨床教育学的な事例報告とその検討の仕方を獲得することを目標とする。					◎									
19MCEC1301	課題研究Ⅰ	1	受講生の関心領域に関する知見を文献研究によって広げることが目的としている。文献は、書籍、雑誌を用い、扱った文献の理論的背景、方法などについて批判的に読み解く。このことを通じて自身の修士学位請求論文の問題意識を明確にする。	修士学位請求論文の問題部分に関する理論的枠組みを構築するため、受講者の問題意識を、理論的に整理し、他の研究者や学生に説明できるようになることを目標としている。								◎						
19MCEC2302	課題研究Ⅱ	2	各自の修士学位請求論文完成に向けての理論的検討と、関連諸領域の文献検討を通しての、具体的研究の実現にある。	本授業の目標は修士学位請求論文の完成である。このため、次の各点までの到達が求められる。 1. 課題研究Ⅰにおいて明確になった各自の問題意識を文章表現する。 2. 研究の方法を明確化する。 3. 中間発表等の機会を通じて、自身の問題を批判的に考察できるようになる。 4. 修士学位請求論文の完成。										◎				
19MCEC1003	実地研究	1	自身の専門領域と異なる実践現場を訪問し、異なる視点から各自の実践や研究活動を振り返ることを目的としている。	自分の専門領域と異なる実践現場の見学を通じて、研究の広がりを得ることを目標としている。														◎
19MCEC1004	調査研究計画	1	資料検索などを通じて各人の研究関心を明確にするとともに、研究目的の設定とそれに伴う研究計画の立て方を解説し、受講者は修士学位請求論文作成に向けて実践していく。	1. 自身の取り組むべき関心を見つけ、それを整理して説明できるようになる。 2. 関心ある領域の先行研究を的確に検索できるようになる。 3. 研究目的に応じた研究計画を立てられるようになる。 4. 調査および論文作成上の決まり（論文構成、引用の仕方、参考文献や注の書き方、倫理的配慮など）を知る。 5. アンケート作成の手順を知る。 6. 簡単な統計結果の読み方や検定の仕方を知る。										◎				
19MCEC2005	教育調査・統計法	2	教育に関する調査・統計を行うための基本的な考え方を身につけるとともに、統計ソフトSPSSを使用したデータの処理の仕方、および統計結果の読み方などについて学ぶ。	1. データの取り方、データの入力、確認の仕方を身につける。 2. SPSSを使用して、集計および基礎的検定の操作を覚え、その読み方、解釈の仕方を身につける。										◎				





科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断		4. 態度・志向性						
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2					
19MCEC2222	学校臨床学演習	2	学校臨床学の分野の中でも、特別支援教育に焦点を当て、学校現場での実践的な問題解決への方法論について学ぶ。支援目標として、学校現場で緊急かつ高頻度に提出されることの多い学校場面における逸脱行動の解消を取り上げる。本授業をととして、典型的な逸脱行動の解決手段について学ぶとともに、逸脱行動の起こりやすい環境についての理解を深める。	逸脱行動の解決に向けての討議をすることによって、逸脱行動を分析し、効果的な支援の提案をすることが可能になる支援のスキルを習得する。方法としては、事例を提示して実際に事例検討を実行し、専門的知識だけでなく、支援者としての自己分析作業も行う。								◎						
19MCEC1123	児童・青年臨床心理学特論	1	児童・青年臨床心理学に関する領域と対象を取り上げ、より高度な専門性の育成を目標とする。	児童や青年の精神身体的な発達の様相、「大人になる」ことの難しさについて学ぶことを到達目標とする。	◎	◎												
19MCEC1124	コミュニケーション特論	1	児童・生徒が高度なコミュニケーション能力を獲得するための理論と技法について学び、より高度な専門性の育成を目指す。	児童・生徒のコミュニケーション能力の向上に伴い、教師のコミュニケーション能力が向上することを到達目標とする。					◎									
19MCEC1125	教育心理学特論	1	学校臨床において必要となる児童・生徒の育ちと学びの基礎知識と実践のあり方を理解する。本授業では、教育心理学の概念と、教育心理学を構成する諸領域について学習し、それらを通じて、今日の教育現場での問題を検討してゆく。この過程を通じて、学校臨床に必要な問題解決の技能を身につける。	本授業では、今日の教育現場で起きている様々な問題を、心理学の視点から分析理解するための基礎知識の習得を目標としている。これらを用いて、授業の中で提示される現場での問題を分析できるようになることを目指す。	◎	◎												
19MCEC1126	心理アセスメントの理論と実際	1	本授業では、心理教育的アセスメントの理論と実践方法について学習した後、実際に学校現場でよく使用される心理検査を経験し、結果の分析、解釈、さらには準備された検査結果から支援計画の作成方法を学ぶ。アセスメントにより正確かつ迅速な現状把握をすること、支援計画の作成が可能なスキルを高めることを目標とする。	アセスメントによく使用される心理検査（知能テスト、投影法テストなど）を自ら体験することにより、測定されているのは人間のどの能力なのかを推測する。アセスメントの結果が反映された支援計画作成を目指す。								◎						
19MCEC1127	障害児・者の教育と心理	1	特別支援教育の実施にとって不可欠である障害児・者の理解を深め、多義に渡る障害について学習、社会性、認知、運動面のアセスメントと支援の方法についての最新の知見を学ぶ。障害特性に即した効果的な支援を実践できるための知識を習得する。	1. 年齢を問わず、障害特性に即した支援方法を知識として習得する。 2. 各障害について、乳児期から義務教育終了後までの、臨床像を知り、利用できる支援についての情報を把握する。	◎	◎												
19MCEC2128	心理教育アセスメント特論	2	心理教育的アセスメントの必要性から開始し、理論と実践方法についての知識を学習した後、実際に学校現場でよく使用される心理検査を体験し、結果の分析、解釈、さらには準備された検査結果から支援計画の作成を実施する。	教育現場で使用されるアセスメントのための心理検査（知能テスト、投影法テストなど）を学び、測定されているのは人間のどの能力なのかを推測し、その結果が反映された支援計画作成を目指す。									◎					





科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2						
19MCEC1143	臨床福祉学特論Ⅰ	1	臨床福祉学とは、生活困難を抱える人あるいはその事象（その多くは生活全般の状況）に対し、課題の解決・軽減あるいは改善を目指すことを目的とした「社会福祉領域の実践方法への問い」である。本講義では、個人の生活困難の解決或いは改善を目指すためのミクロ的なアプローチの理解に焦点を当てる。	ソーシャルワークの専門性とその固有性について、ジレンマについて理解を深める。ソーシャルワークの価値、倫理、原理・原則を学ぶと共に、実践を展開するにあたっての困難性について、ジレンマの視点から学ぶ。そして、個人の生活困難の解決或いは改善を目指すためのミクロ的なアプローチの理解に焦点を当てる。特に生活困難者の「QOL」が高まるための支援方策、そのために支援者に必要な生活困難者の潜在的な能力（workability力）を見出そうとする「Strength」視点、困難な状況に対処するための「Coping」と「Reframing」視点について理解を深める。	◎	◎								
19MCEC2144	臨床福祉学特論Ⅱ	2	ソーシャルワークの視点を理解しておくことは、多種多様な問題を抱える人々の援助活動を行う上で客観的な視座の獲得に繋がり、その結果として実践力の向上が見込まれる。この授業ではメゾ・マクロの視点に焦点を当て、社会政策・公共政策の影響と研究方法の理解を目指す。同時に、メゾ・マクロ的な社会福祉的活動と研究を行う際の知識の基盤を創る。	1. メゾ・マクロというシステム的な概念を理解する。 2. 社会政策・公共政策について理解する。 3. 研究論文講読を通して、社会政策・公共政策の研究方法を学ぶ。 4. 関心のある分野の社会政策・公共政策を分析し考察する。	◎	◎								
19MCEC1145	教育福祉特論	1	本講義は現代日本の「貧困の実態」と国民が持つ「貧困観」を探索的に理解し、これらが人間の成長発達に及ぼす影響について考察を深めることを目的とする。	1. 現代日本の貧困は「隠された貧困」ともいわれ、正確な実態把握はできていない。さまざまな実態、データ、声を拾い集めながら、貧困への関心を高める。 2. 貧困は個人の責任に帰される現象ではない。社会的要因、政策的要因、教育的要因などさまざまな社会構造と生活構造の元に発生するものであることについて理解を深める。 3. 貧困が人間の成長に及ぼす影響について、主として子どもとその養育・教育環境を中心に考察できるようにする。 4. 家族形態の変化と貧困の関連性について、「再生産」の視点で客観的な理解を深める。 5. 若年出産、養育困難、不適切な養育、虐待、不登校、就学意欲の喪失等の諸問題を1.～4.の視点から分析的に捉えなおすことができるようになる。 6. 「貧困」を「経済的貧困」と「精神的貧困」に構成し直した「貧困の文化」について理解を深める。	◎	◎								
19MCEC1146	社会福祉調査法特論	1	ソーシャルワーク実践は、基本的にクライアントとのコミュニケーションを通して、クライアントと共に、クライアントが直面する問題や課題の所在を探り、その解決を図ろうと試みる。この実践の特徴はソーシャルワーカーが質的調査に着手する上で強みとなるが、研究者として調査にあたる場合は方法論の理解だけでなく、実在論や認識論といった理論的背景の理解が重要である。また医療領域と同様、ソーシャルワークもEvidence-Based Practice（EBP：証拠に基づく実践）が求められている。こうした現状を踏まえ、本講義では質的研究パラダイムの理解、基本的な方法論の理解、また質的調査結果の普及に関する理解を深め、質的調査の視点を学ぶ。	1. 質的調査の研究パラダイムについて理解する。 2. 質的調査方法を体験する。 3. 質的調査結果の普及について現状を知る。 4. 量的調査と質的調査の違いについて理解する。								◎		